

不死の思考とは

金沢区 ^{まつ}松 ^せ瀬 ^{かん}観 ^{おう}翁



池袋暴走事故をあなたはどの様に見るか？妻と幼い子供を突然理不尽な事故でなくした被害者の御主人はどう考える事が出来るか？**原因論**で、救われるのか？**目的論**なら、救われるか？犠牲者とは**原因論**の発想で

あって、**目的論**では犠牲者は存在せず、そしてすべての人が目的を達成している。幼い子供や加害者さえも責任を果した完璧存在なのである。なくなった妻と幼い子供は、自分を責めているあるいは、加害者を責めている、御主人を見て喜ぶだろうか？過去に原因を追究する**原因論**は**決定論**に支配される。過去の事実は変えられないので解決策は見出せず勇気をくじく。**原因論**では心の問題は解決できない。**目的論**は今何をすべきかを考える。道が開き勇気づけられる。似た言葉に**目標論**があるが、今ここにいない。未来のために今を犠牲にする。自らが馬人參をぶら下げ進む。私達は過去の原因や未来の目標に縛られ肩身が狭くなり、今ここは空虚となり常時自己否定させられている。**目的論**は過去がどうだったかと一切関係がない。これからどうするか？がすべてであり、現在の目的が現状を創り出して行く。非業の死を遂げた者への真の喪の実現、御霊の成佛には**目的論**がふさわしい。

単独者（持続の世界に入った者）は悪いものは悪いと切断する。課題（罪と人）の分離をする。そして相手に対して完全に対等な関係で最高の敬意を払う。**目的論**の世界では、すべて最善であり、全生命体は皆同じ目的（他者への貢献）を持つ**共同体精神** $\psi 7$ である。**原因論**に自由意志はない責任もない。ある意味全員が被害者であり罪人である。**目的論**には本当の自由意志

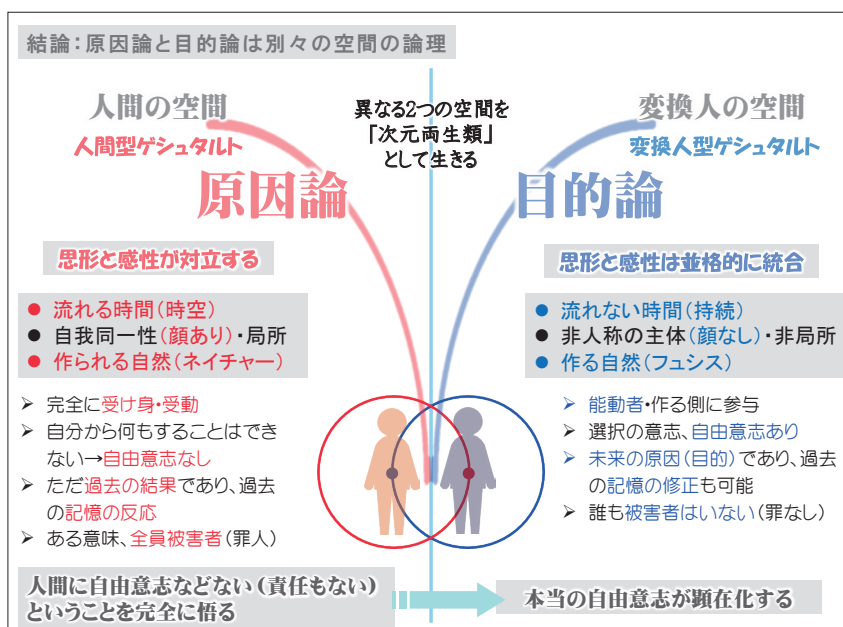
があり、誰も被害者はおらず、罪もない。重要なのは人間及び変換人として異なる2つの空間を『次元両生類』として生きる必要がある事だ。

『過去は過ぎ去らずここにあり、未来は未だ来ず既にここにある』これは**因果律（原因論）**で解釈しても分からない。過去が原因で現在が結果、現在が原因で未来が結果。どうしてここに過去も未来もあるのか？**理由律（目的論）**で解釈すると過去の目的が現在に顕れており同時に未来の目的も現在に内包されていると分かる。例えて言うなら、過去のアサガオの種は今ここに花としてあり、未来のアサガオの花は今ここに種としてある。種は未来の姿である花を内包している。種は原因ではなく、目的であるのだ。花も種もすべて現在に顕れていて（**花果同時**）もう既にここにある→持続とは過ぎ去らないし到来もせず、現在と同時である（**中今の極意**）

『わたしを信じる者はたとえ死んでも生きるわたしを信じる者はいつまでも死なない』
→新約聖書ヨハネ11章25-26節。わたしとは命=持続=存在=**フュシス**であり、不死の思考だ。まもなく生きながらにして死後の世界へ入って行く。生と死は2つで1つ。生と死は重合しており、私達は毎瞬死んでいて毎瞬生もまた更新され続けている。主体の歴史である**ネイチャー**（作られる自然←**しぜん**）で死は隠されて来たこれからは、存在の歴史である**フュシス**（作る自然←**じねん**）となって、死は表に出て来る。死の世界（持続）にこそ命の現場がある。起こる出来事の中で感じ方を確かめる事。感じ方の方に（モノ側に）主体がある。そして自分には自由意志などない！と分かった者だけに、本当の自由意志は**反転した空間**で顕在化するのだ。

私達は【ある】世界だけで思考していたのだ。【いる】世界を完全に忘却していた→**存在忘却**持続とは【なる】世界だ。そして【なる】から【あらしめる】【いらしめる】世界 送り出す側に入ろう。【ある】【いる】の世界（**此岸**）から

【なる】の世界（彼岸）へ飛び込んでみよう。
 バンジージャンプした先が本当の故郷だから。



結論：原因論と目的論は別々の空間の論理

参考文献

関西ニューソロジー研究会（主宰 川瀬統心）
 変換人の心象風景Ⅲ（2019年5月のDVD）
 原因論と目的論Ⅱ（2019年6月のDVD）
 2019年上半期総集編（2019年7月のDVD）

石坂京美さん。素敵なお書をどうもありがとうございます！

